

会長賞

小学生の部



「僕の夢は「義肢装具士」」

福岡市立那珂小学校
5年 鶴田 優志さん

僕には夢があります。それは、義肢装具士になることです。義肢装具士とは、病気や事故で手や足を失った人や身体に障がいがある人のために、人工の手や足を作る専門家です。僕は、手や足の不自由な人たちの役に立ちたいと思っています。

僕が義肢装具士になりたいと思ったきっかけは、東京パラリンピックのバドミントンをテレビで見たことでした。その試合には、僕と同じ福岡市出身の梶原大暉選手が出ていました。梶原選手は、車いすを使ったバドミントンの選手です。

僕が見た試合は決勝戦で、金メダルのかかった試

合でした。相手は韓国の世界王者キムジョンジュン選手でした。梶原選手は、車いすを激しく動かしながら、キム選手が打ったシャトルをあきらめずに打ち返していました。僕は、テレビの前で立ち上がったりとび上がったりしながら、大きな声で応援しました。一生けん命に試合をしている梶原選手を見ながら、僕は応援する気持ちがどんどん強くなってきました。パラリンピックでは、他にも義足や車いすで競技をしている人がたくさんいました。世界には体の不自由な人が数多くいらっしゃることを知りました。この時、手や足の不自由な人たちの役に立ちたいという思いがとても強くなり、義肢装具士になることが僕の夢になりました。

そして、今年の五月、家族でバッテリーセンターへ行った時、奇跡的なことが起こりました。なんと、僕の夢のきっかけとなった梶原選手が、すぐそばにいたのです。梶原選手は、一緒に来ていた人とストラックアウトをとっても楽しそうにしていました。緊張したけれど、声をかけて、「自分の夢が義肢装具士であること」を梶原選手に伝えました。おどろいて

いましたが、真剣に話を聞いてくださいました。実際に車いすの梶原選手に会って、足が不自由なのにバドミントンの世界でトップの活やくをしていることが本当にすごいと思いました。この出来事は、僕の夢に対する気もちをますます大きくしました。

義肢装具士になるためには、大学や専門学校などで専門的な勉強をしなければなりません。そして、国家試験に合格して、義肢装具士の国家資格を取らなければなりません。今、全国には、国家資格を持っている人は、およそ五千人しかいないそうです。義肢装具士の力を必要とする人たちは、病気や事故で手や足を失った人たちです。身体だけではなく、心に苦しみや悲しみ、不安をかかえているかもしれません。

義肢装具士になるという夢を実現するために、まずは、「人を大切にする心」をもち続けていきます。そして、将来、国家資格を得ることができるよう、毎日の勉強をしっかりとがんばっていきます。